



Q 新総計の幸せ社会とは

山谷 仁 議員
(新志会)

A 日本一顧客に近い行政

新総合計画での主な「めざそう値」

| 最適化条件 | | 代表指標 | 現状値 | 目標値 (5年後) | 目標値 (10年後) |
|-------|---------------------------|--|-------|--------------|---------------|
| 輝く | 心身ともに元気で暮らせる | 自分が心身ともに元気と感じている人の割合 | 56.3% | 60.0% | 65.0% |
| | みんなで地域の夢の実現のために取り組むことができる | まちづくり委員会の参加(委員)数 | 310人 | 350人 | 400人 |
| 交わる | 隣り近所とのつきあいがある | 隣り近所とのつきあいがある人の割合 | 48.6% | 50.0% | 60.0% |
| | 地域間での交流がある | この1年で地域活動に参加したことがある割合 | 37.2% | 42.0% | 50.0% |
| 支えあつ | 地域に安心できる防災の仕組みがある | 自主防災組織設置数 | 2団体 | 10団体 | 20団体 |
| | 地域の中に支えあう仕組みがある | 滝沢村はみんなが支えあうことで地域の課題を解決できる村だと思っている人の割合 | 32.4% | 40.0% | 50.0% |
| 育む | 安心して子育てができる | 子育ての悩みや不安を相談できる人がいる(いた)人の割合 | 61.5% | 65.0% | 75.0% |
| | 自然環境に配慮する取り組みが行われている | 1日あたりのごみ排出量(住民1人あたり) | 883g | 883g | 800g |
| 働く | 働く場がある | 事業所数(生産年齢人口1,000人あたり) | 40.8所 | 45.0所 | 50.0所 |
| | 村の特色を活かした産業がある | 事業所数(生産年齢人口1,000人あたり) | 40.8所 | 45.0所 | 50.0所 |
| 住む | 交通安全が保たれている | 交通事故(人身事故)発生件数(住民1万人あたり) | 42.9件 | 40件 | 35件 |
| | ずっと住みたいと思える村である | 自分の村に愛着を持っている人の割合 | 72.8% | 75.0% | 80.0% |

Q1 村は「幸せ地域社会」の実現を目指し、日本一顧客に近い行政活動を続けています。その具体的な方向性と今後10年の方針が新総合計画画であるが、その計画は、村民が描いている村の将来像になるのか。また住民協働、経済的自立は住民に対しての押し付けにならないのか。

A1 「地域は地域のみんで創る」という地域経営の考え方に基つき、地域のみんで「ビジョン」や課題を共有しながら、まちづくりをする必要があります。
新総合計画では「めざそう値」という目標値を47項目について設定し、毎年報告書にまとめ、住民と共有し、指針とします。

「住民協働」「経済的自立」については、「自治」というものを根本から見直し、本来の自治の目的である「住民自治」へと変えていきます。住民が活動しやすい環境整備や情報提供などの支援が行政の役割と考え、協議していきます。また重点政策を「地域経済の活性化」と「自然との共生」とし、雇用の確保にも努めます。

子どもの居場所づくりは

Q2 学童クラブ施設の老朽化や狭小化が進んでおり、今後の取組みと対策について伺います。

A2 特に狭あい化の解消による衛生面の確保は重要であります。現在の学童クラブのあり方を見直し、適切な遊びと生活の場の確保を進め、児童の健全育成を図るために、地域父母会、関係者と調整を進めながら、17年度をめどに学校施設等の活用方法も考えていきます。